

小 2 年

よご	赤	
二年	い	雨
へ	か	が
け	さ	ふ
い	を	っ
お	さ	た
な	し	の
	た。	で

大津市教育委員会教育長賞

平家 衣穂菜

のびやかな線で字形も美しく、じつにどうどうとした作品です。名前まで心をこめて書けました。

小 1 年

び	そ
わ	
み	ら
な	
み	ー
ね	ま
ん	よ
	め

滋賀県書教育研究会長賞

室 文乃

どの文字もていねいにかけています。はらい、とめ、おりかえし、むすびもすばらしいです。

小 1 年

せ	た
た	
ひ	い
が	
し	そ
ね	
ん	う
ふ	
じ	
わ	
ら	
は	
く	

京都新聞賞

藤原羽玖

しっかりとせんでどうどうとかけています。名まえもとてもていねい

幼稚園

	く
	う
ひ	し
な	
た	た

京都新聞賞

山田陽太

しっかりとのびやかなせんが、とてもすばらしいさくひんです。いつものがんばりがよいけっかになりました。

小 3 年

今	絵	
づ	葉	友
北	書	だ
三	が	ち
年	で	に
	き	お
前	た	く
川		る
晴		
太		

滋賀県知事賞

前川晴太

安定した筆あつ、ととのった字形、行の中心のそろえ方。どれを見ても完成度の高い作品です。

小 2 年

さ	見
か	つ
田	赤
二	け
年	い
	ま
は	ザ
し	リ
本	た
ま	ガ
ほ	ニ
	を

滋賀県書教育研究会長賞

橋本茉歩

横画の角度をそろえ、同じようにして書けていてすばらしいです。むすびの形もととのっています。

小 2 年

の	大
き	き
た	ひ
二	く
年	ま
	わ
中	い
村	り
み	た
お	の
	花
	よ
	ガ

滋賀県書教育研究会長賞

中村美音

じしんをもつてのびやかな線で書いて、気もちのよい作品です。れんしゅうのせいかがあられましたね。

小 2 年

お	小
き	犬
長	花
二	と
年	を
	さ
ふ	つ
る	ん
の	み
あ	ほ
子	な
	す
	ガ
	る
	ら

京都新聞賞

古野葵子

切れのある線で、さいごまでていねいに書きあげた、うつくしい作ひんです。

小 3 年

小 3 年

小 3 年

小 3 年

大 津 市 長 賞

深 田 悠 月

草	三	年
本	永	一
世	い	
絵	葉	友
書	だ	ち
が	に	き
で	お	く
た	る	

滋賀県書道協会賞

本 永 一 晟

一画一画、安定した筆圧で書けています。行の中心がぶれずに、美しくととのった字形で書ききり見事です。

マ	東	三	年
は	し	本	さ
わ			
雨	と	あ	
か	じ	さ	
た	い	の	
つ	む	り	
花			

滋賀県書教育研究会長賞

橋 本 紗 和

軽く美しい線で、名前まで書きあげ見事です。ひらがなよりも漢字を大きく書くなどよく考えられています。

た	が	三	年
の	せ	ひ	な
た			
絵	葉	友	
書	だ	ち	
が	に	き	
で	お	く	
た	る		

京 都 新 聞 賞

能 政 ひ な た

行の中心をしっかりと意識して書けています。線も美しく一画一画心をこめて書けています。

膏	月	三	年
ふ	か	田	ゆ
月			
れ	い	大	
に	き	な	
い	花	が	
た	よ	き	

すっきりとした、美しい線がみよくてきです。字形もととのって、名前まで気をぬくことなく書き上げ見事です。

小 4 年

小 4 年

小 4 年

小 4 年

滋賀県教育委員会教育長賞

谷 川 真 名 叶

ふ	ぞ	く	四	年
山	田	小	陽	
白	い	大	空	
ひ	の	か	な	
う	き	雲	た	
に				

滋賀県書教育研究会長賞

山 田 小 陽

はじめから終わりまで同じ調子で書けています。全体的にゆったりとしていてどうどうとした作品です。

南	ご	う	里	四	年
佐	治	ひ	ま	り	
な	い	今	朝	は	
青	空	で	雲	一	
す	つ				

滋賀県書教育研究会長賞

佐 治 柊 愛 莉

名前の最後の一字までゆっくりとていねいに書き切っています。漢字とかなのバランスもすばらしいです。

長	北	四	年
ふ	じ	内	ひ
か	り		
に	う	ス	
か	イ	レ	
ふ	夏	ン	
の	は	水	
花	面		

京 都 新 聞 賞

藤 内 ひ かり

一貫した軽い筆圧で、ていねいに書けています。文字の大きさをしっかり考え、バランスよくまとめています。

世	田	北	小	四	年
谷	川	真	名	叶	
話	を	聞	き	ま	
し	ず	か	に	先	
生	た	の			

すっきりとしたのびやかな線で美しく書き上げています。文字の組み立てをよく考え、バランスも見事です。

小 5 年

青	月	
山	の	美
五	船	し
年	が	い
小	わ	空
畑	た	の
こ	る	海
の		を
み		

京都新聞賞

小畑このみ

軽いタッチでいいねいな線最後まで書けています。字形にも気を配りすっきりとした作品になりました。

小 5 年

マ	を	
西	大	種
五	切	を
年	に	ま
今	育	い
井	て	た
杏	る	植
菜		物

大津市教育委員会教育長賞

今井杏菜

線の長さや向きが美しく整えられ、すぐれた作品です。名前まで同じ調子で書かれていてすばらしいです。

小 4 年

京	つ	
女	い	地
四	て	球
年	調	温
四	べ	だ
宮	る	ん
朱		化
莉		に

滋賀県書道協会賞

四ノ宮朱莉

画数の多い漢字も、字形の特ちょうをよくとらえ、バランスよく書き上げました。筆圧は軽く、線はのびやかです。

小 4 年

花	
の	コ
さ	ブ
く	シ
木	は
で	
す	白
	い

滋賀県書道協会賞

布施千夏

軽い筆圧ですっきりと仕上げられています。中心がよく通り、流れるような美しさを感じる作品です。

小 6 年

島	変	よ	
小	化	く	何
六	し	見	気
年	て	る	な
西	い	と	い
川	る	季	道
凜	の	節	ば
	が	と	た
	分	共	の
	か	に	風
	る	様	景
		々	も
		に	

滋賀県知事賞

西川凜

とてもきれいな線質です。漢字もひらがなも確かな字形で、最初から最後まで整って書けています。

小 5 年

西	を	
大	大	種
五	切	を
年	に	ま
野	育	い
矢	て	た
佳	る	植
凜		物

滋賀県書道協会賞

野矢佳凜

とてもいいねいに字形を整えて最後まで書き切りました。右上がりをおさえて落ち着きのある作品となりました。

小 5 年

川	く	
の	星	夜
よ	の	空
う	間	を
に	を	見
流		上
れ	白	げ
て	い	る
行	雲	と
た	が	
	ま	ま
	る	た
	で	

滋賀県書道協会賞

村林愛菜

見事に中心をそろえて最後まで書き切った高学年らしいすぐれた作品です。一字一字しっかり書けています。

小 5 年

月	
の	美
船	し
が	い
わ	空
た	の
る	海
	を

滋賀県教育研究会長賞

石黒心美

漢字とひらがながよく調和していて、名前までしっかりとした線で書き切りました。

小 6 年

八幡 六年 中嶋日向子	の	
	原	有
	画	名
	を	な
	集	絵
	め	本
	る	作
	家	

滋賀県書教育研究会長賞

中嶋 日向子

画数に変化のある文字を確かな字形で最後まで落ちついて書ききっています。とても素晴らしい作品です。

小 6 年

新旭北 六年 高木 美衣菜		何	気	な	い	道	ば	た	の	風	景	も
		よ	く	見	る	と	季	節	と	共	に	様
		変	化	し	て	い	る	の	が	分	か	る

滋賀県書教育研究会長賞

高木 美衣菜

力まずに、しっかりと自信を持って書いた美しい作品です。文字の大きさにも気をつけ、統一感のある秀作です。

小 6 年

安曇 六年 平井はな	長	す	る	最	高	学	年
	仲	問	と	と	も	に	成

京都新聞賞

平井 はな

一画一画しっかりと落ち着いた線で書けています。横画のかたむきも良くそろい、最後まで同じ書きぶりが見事です。

小 6 年

長浜 六年 矢島 心暖	ア	イ	ヌ	民	族	は		北	海	道	と	そ
	の	周	辺	に	住	み		自	分	た	ち	の
	化	や	自	然	を	大	切	に	し	て	き	た

滋賀県教育委員会教育長賞

矢島 心暖

のびやかな線で最後まで落ち着いた線に書けています。中心もよく通り、すばらしい作品です。

中 1 年

急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるのだ。

田上サ 一年 野口 唯七

滋賀県書教育研究会長賞

野口 唯七

字形が整っているだけでなく、文字の下のラインをそろえ、確実に書けています。

中 1 年

川の流れ 静かな高原
夕焼け空 遠い海鳴り
附属一年 奥田 彩乃

京都新聞賞

奥田 彩乃

まっすぐ、揺るぎない線にひきつけられる作品です。漢字とひらがなのバランスも適切です。

中 1 年

湖水の鳥 美しい夜景
魚の大群 夕焼けの空
長西 一年 平津 未来

滋賀県教育委員会教育長賞

平津 未来

言葉の意味をイメージしながら書いたのでしょうか。美しく鮮やかに仕上がっています。

小 6 年

朝日 六年 山岡 日南	大	造	じ	い	さ	ん	は		花	の	下	に
	立	っ	て		こ	う	大	き	な	声	で	ガ
	に	よ	び	か	け	ま	し	た				

滋賀県書道協会賞

山岡 日南

ひらがなの多い文をのびやかな線でリズム良く書けています。ひらがなのきれいな字形が作品を明るくしています。

中 1 年

滋賀県書道協会賞

中村千颯

自立の精神 熱い意欲
豊かな知識 大きな夢
瀬田一年 中村千颯

一画一画気持ちをこめて、ていねいに書き上げました。筆圧も一貫しています。

中 2 年

大津市教育委員会教育長賞

山崎亜友子

海恋ー潮の遠鳴りがぞへては
少女となりー父母の家
水口二年 山崎 亜友子

行書を自分のものにし、歌にあう、やわらかな書きぶりで、洗練された作品です。

中 2 年

京都新聞賞

田本桃華

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。
舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとす。
「おくのほろ道」 光泉 中二 田本桃華

行がすっきりと通り、行間の白、周囲の余白ともに美しく、とても魅力的な作品です。

中 2 年

滋賀県書道協会賞

福井結子

3年に1度開催される浜松国際ピアノコンクールは、第1回開催から僅か7年で国際音楽コンクール世界連盟への加盟を認められその地位を確立した。世界で活躍する優秀な若手ピアニストを多く輩出している。
彦中 二年 福井結子

漢字と仮名の調和に気を遣いながら、字配りよく、気を抜かず書き切りました。

中 3 年

滋賀県知事賞

瀧野稀子

古い地図 歴史を刻む
湖都の旅 群れる野鳥
瀬田三年 瀧野稀子

行書を自分のリズムで伸びやかに書き上げました。スケールの大きい作品です。

中 3 年

大津市教育委員会教育長賞

岩永みのり

相手のためにお茶を差し上げる、ことができたか、茶の道と、づものをつつと心として差し上げることができたか、金のことにおいて粗相はなかったか、これらを常に省みながらお茶を点てる、ことが自分を成長させる素となる。
信楽 三年 岩永みのり

美しい線で、穏やかなペンのタッチが心地よい作品です。名前まで一貫しています。

中 3 年

京都新聞賞

宮部すみれ

今の僕は、過去の全ての失敗やミスと共にあります。
失敗やミスは僕自身であり、人生という星座を形作る最も輝く星たちなのです。 2018 BTS 国連スピーチより
彦根東 3年 宮部すみれ

筆圧軽く、リズムカルに横へ続くペン運びが爽やかな、若々しさにあふれた作品。

高 1 年

滋賀県芸術文化祭奨励賞

児玉凛

江戸時代の膳所は、膳所藩本多家六万石の城下町として栄えていた。膳所城は湖水に美しい姿を映し、東海道の名勝と親しまれた。
膳所高校 一年 児玉凛

行書の特徴をしっかりと理解し身につけた上で、すっきりとした爽やかな線で書ききり見事です。

移動銀紙打倒駐車
地球物語流砂材料

揺るぎのないきっぱりとした線が魅力です。線の角度や間隔など見事に制御されて輝きを放っています。

高 1 年

旅人は待てよ
 このかすかな泉に
 古き端より昔に
 考えよ人生の旅人
 汝もまた世間かしらみ出た
 水體にすぎな、
 この考えも水も永劫には流れぬ、
 永劫の或時にみかゝる
 ああかすけが鳴りてやかまし、
 時々、水の中より
 花をよせし幻影のへか出る
 永遠に生命を求むるは夢
 流れ去る生命のせりぎに
 思を捨て遂に
 永劫の断崖より落ちて
 消え失せんと望むはうつ
 そう言ひはこ幻影河童
 村や町へ水から出て
 磯かに来る
 浮雲の影に水事のかる頃

西陽順三郎 詩
 俣谷高成 一年山本 結目

行頭をきれいにそろえ美しい行の並びがリズムよく展開していく気持ちのよい作品です。統一感があります。

滋賀県書教育研究会長賞

中島彩愛

甲骨文、何と云ふに簡素な文字であつた。その點、置か重ねた模様の單純さが、現代人である私に、新新を強烈に感ぜさせてくれるのも、それない。甲骨文は、金體に硬い骨などに、三角のみのような刃物で刻すため、その構成は單純で直線を組み合わせたものが多く、その造形の面白さは、古代人の夢があり、ロマンがある。甲骨文は、長期間、中国最古の文字とされ、漢字の起源とも見られてきた。それは、すでに文字としての構造も、つくり方も、相互に進展した段階のものだからである。しかし、近年、中国では、新しい文字資料が次々と發掘され、その考え方は疑問視されている。新たな文字資料として、殷中期、異城遺跡出土の陶文、刻符等があるが、それらも文として、つづられているものと、つかあり、文字の存在が明らかになつた。歴高、年中、鳥、彩、愛

全八行にわたる長文を終始一貫したリズムで書ききり圧巻です。自分の書きぶりが確立されています。

高 1 年

小さな一歩を細かく繰り返す方が多くを学べる
変化は突然ではなく小さな努力の積み重ねである
生きるとは、呼吸することではない。行動することだ
長浜北高一年 野村 朱伽

簡潔な線できびきびと書かれています。字の中の白を大事にしたおらかな動きで紙面全体に明るさを感じる作品です。

滋賀県書教育研究会長賞

家森美緒

伝えたくて伝わらなくて時には素直になれずに泣いた季節を越えた僕は
は今とても輝いてるよ それぞれ描く幸せのかたちは重なり今大きな愛に
なるずっと二人で生きてゆこう 百年先も愛を誓うよ 君は僕の全てで
信じてゐた 信じてる 同じ時間を刻む人へ どんな君もどんな僕でも
ひとつひとつが愛しい 君がいれば何もうらないきつと幸せにするから

河瀬高校一年 家森美緒

漢字の楷書とひらがなをうまく調和させ、文字の大小を工夫しながら心地よいリズムで書けました。

高 1 年

作品を書く、ということは、ただ筆をもて書けるものではありません。何か感動をあるものから受けて、その影郷響で自分の心が動きだし書きたいと思う、幻影が頭の中に作りだされ、ます、出来上がった書の姿がはっきとした形でない、までも見えてくるわけです。つまり……東大津高一年谷本紗菜

漢字の組み立てやひらがなの美しい形を自分のものとし、すっきりとした美しい線で仕上げています。

滋賀県書教育研究会長賞

植木帆稀

一 繪圖は手
 二 事業をす
 三 子息を儲けし
 四 今國ものあり
 五 何故事業を
 六 子息をたて
 七 かく影のあり形定まり
 八 國をたぬるは使然
 九 何を問て
 十 立玉の國をす
 十一 人を行ふやれ世？
 十二 彼父を思ふす
 十三 鐵をなす
 十四 彼父を思ふす
 十五 子息を思ふす
 十六 子息を思ふす
 十七 子息を思ふす
 十八 子息を思ふす
 十九 子息を思ふす
 二十 子息を思ふす

集中力を研ぎ澄まし、最後の名前まで丹念に書き進めています。余計な力みを感じさせないところも秀逸です。

滋賀県書道協会賞

松環奈

「少年は大志を抱け」とは、クラーク博士が残された有名なとはです。その後どれだけ多くの少年少女たちが、あゝとばに励まされ、一生懸命勉強したとぞうづ。

考根東
一年
松環奈

とてもよくこなれた行書が、柔らかなタッチで書かれ、下へ下へと自然で美しい流れを生んでいます。

滋賀県書教育研究会長賞

野村朱伽

高 1 年

高 1 年

高 1 年

芭蕉が幼少期から青年期までを送った実家の環境は彼の人間を培う最も重要な要素になったに違いない。その環境は一口で言えば山国の町の中でも最も土の香に満ちた地域であった。そこは白鳳城のすぐ東側で上野の町の東北隅に当たっていた。上野の丘もそこ切れ、芭蕉の家を出て四、五十米も北進すれば短い坂道があり、すぐ平原の田園に下りる。その坂が赤坂であり、その坂を登った所が赤坂町であった。住民はほとんど農民であった。芭蕉がその生の初期において多く見たものは実家に近い農民的生活であったに相違ない。大津高等学校一年 本田葉奈

滋賀県書道協会賞

本田葉奈

一字一字に心を込めて丁寧に書き上げた長文作品。安定したリズムで書けています。

高 1 年

静かで確實な夕暮と色之間なく揺れ動く
白い波頭とが灰色の海辺から迫って来る。
灯台の頂には、気付かれず緑の光が点される。
膳所高校 一年 東條結衣

滋賀県書道協会賞

東條結衣

行書の原則に則り、文字の大小変化に気をつけながら誠実に書き上げて心地よいリズムを感じます。

高 1 年

家路 四季 惑星 運命
家路 四季 惑星 運命
彦根総合高 一年 小城彩奈

滋賀県書道協会賞

小城彩奈

漢字の楷書と行書それぞれの特徴を理解し見事に書き分けています。それぞれの美しさが光ります。

高 1 年

押絵 試作 料紙 的確
標語 判断 秒針 海拔
近江兄弟社高校 一年 福原快悠

滋賀県書道協会賞

福原快悠

漢字の楷書を美しく見せるための文字のバランスをしっかりと自分のものとし、すっきりとした線で表現しています。

高 2 年

比良の暮雪 石山の秋月
矢橋の帰帆 三井の晚鐘
立命館二年 談恵佳

京都新聞賞

談恵佳

文字の点画の組み立て方や字形に注意して丁寧に仕上げられた作品です。中心もスッキリと通っています。

高 2 年

春風万里 立体性 桃源
回転木馬 古美術 東雲
立命館守山高校二年 上久保結菜

滋賀県教育委員会教育長賞

上久保結菜

字形と大きさを整え、基本の線の向きや間隔を見事に揃えた楷書の模範的作品です。直線的な構成に力強さを感じます。

高 1 年

ふなずしは魚と米を発酵させたなれずしの一種で湖国滋賀を代表する郷土料理です。春先に琵琶湖で獲れたニゴロブナを塩漬けにし、夏の土用のころによく洗って飯を身の中に詰め込み熟成させます。手間ひまかけて加工されるふなずしはハレの日の、馳走であるとともに昔から滋養強壮やお腹の薬の代わりにも食べられてきました。
守山高等学校一年 遠藤咲乃

滋賀県書道協会賞

遠藤咲乃

漢字の楷書とひらがな、片仮名をうまく調和させて長文を書ききっています。名前まで一貫して書ききりました。

高 1 年

新年度 桜前線 岩清水
名残雪 二輪草 桐一葉
近江兄弟社高校一年 高田真優

滋賀県書道協会賞

高田真優

一本一本の線の方向や筆圧の度合、線と線の関係など細かい所まで気を配り書きあげました。

高 2 年

高 2 年

高 2 年

高 2 年

滋賀県書道研究会賞

魚住 咲月

真の芸術は作品の背後に人間を求める。
天下を動かそうと思えば先ず自分から動け。
幸福ほど人間の美しさに対する化粧品はない。

彦根東高 二年 魚住 咲月

滋賀県書道協会展賞

岡田 咲月

はるばると、ひっそりもの静かな山道を登っていくと石ころまじりの道がつづいている。ふと谷間を見おろすと白雲がもくもくとわきあがってくるあたりに人家がぼんちと見える。車を停めて、かえでの林の夕暮の美しさを愛でる。霜に打たれて赤く色づいた葉は桃の花よりもっと赤く照り映えている。彦根東 二年 岡田 咲月

漢字と仮名の大小の変化を意識して書き、中心の流れも整った美しい作品です。

滋賀県書道協会展賞

角川 心美

金メダルが決まった瞬間、絶対王者、羽生結弦の目から大粒の涙がこぼれ落ちた。大分前多くを語らず、五輪2連覇への準備を進めながら消えない不安にひたひた立ち向かうことは、時に甚え難い重荷であったに違いない。すべての困難を乗り越えた、しなやかな強さと美しさに私たちはまた心奪われてしまう。 角川 心美

行書の横書きは大変難しいですが速書の調子もと入れながらリズム良く書き切って見事です。

滋賀県書道協会展賞

大川 莉乃

静かで確かな夕暮と絶え間なく揺れ動く白波頭とが、灰色の海辺から迫ってくる。灯台の頂には、気付かれず緑の光が点される。

膳所高校 二年 大川 莉乃

軽快なタッチの行書作品。連綿や動きに変化があり、全体に躍動感が溢れています。

高 3 年

高 3 年

高 2 年

高 2 年

滋賀県書道協会展賞

大森 愛優菜

知覚から出撃する前夜、アランを唄った光山文博少尉は、幼い頃両親に連れられて日本に移り住んだ朝鮮慶尚南道出身の青年だった。当時日本は朝鮮を植民地支配しており、特に終戦前六年間は過激な圧政を敷いていた。この時代、少年期を送った彼は、恐らくは日本に對し相対的な抵抗を感じて、いたはずなのに、特攻を志願してやて来た。全ての差別や蔑視を拭き拭きできる唯一の手段として考えたのか、特攻に加わることだ。た、身は滅んでも家族には特攻兵士の家とか軍神の母とかいって名譽が發生する。そのような動機で志願するとは、何と痛ましいことであらうか。 伊吹高校二年 大森 愛優菜

滋賀県書道協会展賞

平井 美羽音

吾れ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従う。矩を踰えず。子貢問うて曰わく。一言にして以て身を終るまで之を行ふ可き者有り乎。子曰く其れ恕乎。己の欲せざる所を人に施す、と勿かれ。 論語より 大津高校二年 平井 美羽音

基本的な崩し方の行書と、仮名の連綿を生かした流れが美しい作品です。

滋賀県知事賞

大谷 咲楽

「論語」とは紀元前五五三年に生まれ、紀元前四七五年に死んだ中国の聖人の孔子が、弟子たちと問に交わった問答を記録したものです。弟子たちは問う孔子を神のようにならなうと敬慕して、たのび、大先生から教えられる言葉のつづは、彼らの頭の中に焼き付くように強く印象付けられていました。孔子が亡くなって後、弟子たちは、見えない先生の言葉をその弟子に語り、後世に語り継いでいきました。 伊吹高校 三年 大谷 咲楽

相当に習練を積み、自在で美しく流れるような書きぶりで一貫しています。周囲の余白も効果をあげた秀作です。

大津市教育委員会教育賞

小山 桃果

つれづれなるままだに、日暮るらう、硯にむかひて、心にうつりゆくよき事、そ、はかどなく書き、つれば、あやう、そのものぐるほ、いけ。

彦根総合高校 三年 小山 桃果

仮名をよく学び、仮名の手慣れた連綿で美しく行が流れている作品です。

一般

胸さわぎの旅はいま始まって
時の流れのままに心を遊ばせ
この私は誰を訪ねるあてもなく
まるで詩人のように景色に染まって
ああなんて街それぞれ美しいの
ああなんて人それぞれ生きてゐるの
昨日今日明日変わりゆく私
紅く色づくときめきを
誰に告げましょう
風そよげばひとりの胸抱きしめて
愛の不思議を思う吐息をもらして
この泪はきと感じるよるびね
揺れる瞳に映る季節に恋して
ああなんて街それぞれ美しいの
ああなんて人それぞれ生きてゐるの
朝に舞う夢黄昏に会い
ほんの一時のためらいを
誰に言いましょう
「三都物語 -谷村新司-」より
長浜 廣部 秀峰

しっかりとした字形の漢字と平仮名を、字間を詰め行間を空けることにより、横の流れの美しい作品にしています。

京都新聞賞

廣部 秀峰

一般

おとなはその声を日常生活の中でどんな用途に使っているか、子どもを叱るのだけに使っているか、子どもに命令したり禁止したり、責めるのみに使っているか、そうではなく、あなたの声で昔話のイメージが、あなたの子どもの耳の中にお話として入って、たらんたんに夢を贈らして、子どもが生まれてくる限り、子どもを勇気づける声として心の中に残る、素晴らしいやなぞすか、昔話を語る同じ空間に親であることで、一緒に生きていることの愛感が湧いてくるでしょう。お話を楽しんで聞くこと、それだけで人生にとって大きな価値があるではありませんか。佐治 真実子

きびきびとしたペンの運びでリズムカルに書きあげ、切れ味のある明るい作品です。

滋賀県教育委員会教育長賞

佐治 真実子

一般

私たちが大人になっても強くなりたい人前では恥をかきたくない人前では心と口を離れ、人は機械ではない、悲しい時もある、時もある、涙を流せるのは人間の証拠、泣くことは決して弱さではない、むしろ無理するなと、自分を責めるや、その哀れかわらない涙は心のほろりを洗い流してくれる、時には泣くことも自分に許してあげよう、結果、人にならずに、明日また、ちゃんと笑えるようになる。井上 桂子

永年の研鑽の賜物なのでしょう。淀みなく流れながら字形は安定しており、読みやすく美しいペン字の典型です。

滋賀県知事賞

井上 桂子

高 3 年

紀貫之は和歌の歴史に多大な影響を与えた。中でも古今集の編纂は貫之の代表的な仕事の一つである。この巻頭にある仮名序が日本最古の歌論であり、この中で六人の歌人を批評したのが、歌仙である。華々しい活躍とは裏腹に貫之が残した作品には晩年を感じさせるものが多い。土佐日記は全編にわたる任地の土佐で亡くなった我が子の思ひがこめられている。死の直前に詠んだ歌、手に結ぶ糸に宿れる月影のあるかなさかの世にこそありければ、自分の生涯が消え入り、そうなるのはかないもであるという思いが込められている。大津高 三年 出口 美緒

長文の行書を自分のリズムで調子良く一貫して書いていて見事です。

京都新聞賞

出口 美緒

一般

「赤毛のアン」の舞台になったプリンスエドワード島は、
本当に美しい島です。夢のような風景が島中に
広がっていて、何度でも訪れたくなります。
浩 玄
久保田 香風

すっきりとした美しい線で行の中心もよく通り安定している秀作です。

滋賀県書道協会賞

久保田 香風

一般

幼い頃に誰もが持っていた透き通った目、それが大人になるにつれて、
いつか輝きを失ってゆく。年齢を重ね経験を積んでゆく中で、
利害や損得に耽くなり、駆け引きを覚え、世渡りの智慧を身につける。時には幼子の純真な目に自分の姿を映してみたい。その時、恥じる事はないだろうか。
安土 西山 和代

リズムに乗った書きぶりで終始一貫、文字の大小関係にもよく留意して書き上げ見事です。

滋賀県書道協会賞

西山 和代

一般

越前海岸は、水仙の群生地として知られ、
日本海を望む断崖で寒風を受けながら
咲く姿は、生命力にあふれています。
八幡
青木 悦子

軽いタッチで力まず、行間や周囲の余白を充分にとることで上品で明るいペン字作品となりました。

滋賀県書道協会賞

青木 悦子

一般

石油 知識 湖上 経験
創造 奇術 樹木 佳作
東近江 石井 靖子

すっきりとした線で楷書の美しさの原理をふまえた確かな字形で書き切った高い力量の素晴らしいさに感動します。

滋賀県書道協会賞

石井 靖子

君が笑えば世界は光輝く
誰かの幸せが今を照らす
僕らのよう、ひよ君に届け

はじめはどきどき君がけにしたたり
落ちたひとしずくの水の平野流れ
やかた研ぎ、登まされ君をうるおし
鳥たちをはぐみ花たちとたわむれ
あの大河だってはじめはひとしずく
僕らの幸せも大河にすればいい
ごらん、僕は君のそばにいる

君が笑えば世界は光輝く
誰かの幸せが今を照らす
僕らのよう、ひよ君に届け

星明かりにいでて、と立ち止まったら
雨の匂いのなかに虫のうたを聴こう
かすかな花のうたまでひとしずく
静かにつながって確かなつながって
青い空の下夢など語りあう
愛とか語りあうそれが僕の願い
ごらん、光は君とともにいる

君が笑えば世界は光輝く
誰かの幸せが時代を照らす
僕らのよう、ひよ君に届け
雅友会 中村増美

楷書の漢字仮名混じりで多字数の題材を気持ちよく途切らせることなく書き切った集中力に脱帽です。

笑顔には日々を光輝かせます。いつもニコニコできる自分であられたら魔法の杖を手にしたのも同然。昔も今も生事も豊かになります。最後、いくら笑顔が大切だからといって、わんぱくにしゃべっていた笑顔の演技をするのでは意味がありません。これから笑える自分になるにはどうしたらいいのか、きちんと考えてみましよう。笑顔は誰でもできる一番簡単な努力の一つ。みんなたちが一緒にすれば、自分にはニコニコしてられる。みんなを笑っているとき、心から笑いかけてあげてくる。

—— 松浦弥太郎 うららかな笑顔より —— 赤井紅楓

字形をやや斜めに傾け、連ねることで行の横への流れを表現した横書きの秀作です。

豊臣秀長は感情的にながちな兄秀吉とは対照的に温厚、冷静沈着、思慮深い性格でした。家臣達の意見もよく聞き、トラブルが起きた際も穏やかに対処するため、多くの武将から慕われました。権力を誘示するような事はせず、常に控えめな姿勢を貫きました。兄の才能を誰よりも理解し、自身は承継役に徹することで能力を発揮、徳川家康をはじめとする大名からも信頼されました。 華花会 中村真紀子

楷書の文字の組み立てを大切にしながら平仮名をうまく合わせています。文字の底辺を描え横の流れもすばらしいです。